

令和元年度 第2回阿賀町地域公共交通活性化協議会 議事録（要旨）

1 開催日時 令和2年2月3日（月） 午後2時から

2 開催場所 阿賀町役場上川支所2階会議室

3 出席者 25名（出欠状況は別紙委員名簿のとおり）

4 議 題

議題1 路線バス「日出谷線」の廃止に伴う代替バスの運行について

議題2 令和2年度阿賀町バス（高速バス）事業計画（案）について

議題3 津川地域（八ツ田方面）における混乗スクールバスについて

5 協議結果 議題1～3について承認された。

6 会議内容

（1）開会

（2）会長（阿賀町長）挨拶

本日はご多忙のところ、委員各位からご出席賜りましたことに厚く御礼申し上げます。今頃、本来であれば雪の深い季節ではありますが、今年はほとんど雪がなく、除雪も出ない、スキー場も営業できない状況であります。反面、運行事業者の皆さんにおかれましては、非常に運行しやすく、高齢者の皆さんもお出かけしやすい状況になっていると感じています。

昨日は、阿賀の里で「ごつつお祭り」というイベントを開催し、JRには新津駅から咲花駅まで臨時便を出していただきました。また咲花から阿賀の里までは船で移動してもらい、約1,400人の多くの方にご来場いただきました。このようなイベントを通じて、どのようなところに公共交通のニーズがあるのか検証していきたいとも考えています。

本日は3つの議題を審議していただきますが、公共交通施策については、抜本的な見直しを進めていかなければならない中で、来年度は目標を定めながら、それに向けた体制づくりを進め、着手していく年度と考えています。本日は議題ばかりではなく、今後の公共交通の整備に向け、広く情報交換の場としたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(3) 議題

【議題1】阿賀町路線バス「日出谷線」の廃止に伴う代替バスの運行について

(資料1に基づき、事務局が議題1について説明)

会 長：補足として、混乗するスクールバスは何人乗りの車両かと、スクールバスに乗車する生徒数は何人を予定しているかを教えてください。

事 務 局：スクールバスは29人乗りのマイクロバスで、上限利用人数は27人を想定している。豊実・日出谷地域の学生数は9名の予定で、現在の路線バスの利用状況から見ても乗り切れないような状況にはならないと推測している。

副 会 長：鹿瀬地域の利用状況について、津川行きは9時台の便の利用が多く、帰りは11時台の便の利用が多いが、これはほとんどの人がその間に用事を終えているということか。

事 務 局：津川地域への到着は概ね10時ごろとなるが、医療機関への受診のみの方は、ほぼ11時台の便で帰るケースが多い。ただし11時台の帰りの便については、そのまま帰宅せず、鹿瀬地域にある赤湯という温泉施設に立ち寄った後に、午後の便で帰宅する方も一部おられる。

副 会 長：代替バスについて、豊実駅まで延伸するという事でサービス区間は増えるが、その先の荒沢集落までのケアはしなくてもよいという判断か。

事 務 局：豊実駅から先の集落については道路の幅員も狭く、また、荒沢集落までは、福祉バスが運行しており、多くの利用者がいることや、現在公共交通を利用する子ども等もないことから、代替バスについては、豊実駅の発着としたい。荒沢方面については、従来どおり週3回の福祉バスで対応したいと考えている。

副 会 長：阿賀町高速バスとの接続については、地域のモビリティが向上することで、なるので、積極的にアピールしていただきたい。

会 長：今回の代替バスは、新潟交通観光バス(株)の路線バス廃止によって生じたものですが、地域の足をなくすわけにはいかないという考えのもと、スクールバスの利用など工夫をしながら総合的に代替案を出させていただいた。

(以上の質疑後、原案のとおり承認された。)

【議題2】令和2年度阿賀町バス(高速バス)事業計画(案)について

(資料2に基づき、事務局が議題2について説明)

会 長：従来から鹿瀬地域からの高速バスへの接続を希望する声があった。今回の

代替バスはそのような意見を受け、可能な限り高速バスへの乗り継ぎが可能となるような時刻編成をさせていただいた。

(代理)伊藤：資料 2-1 の 5 ページに掲載している自由意見・要望は、感謝の意見が多いが、悪い意見というか改善を希望する声はなかったか。

事務局：今回掲載した自由意見は記入があったものをそのまま記載している。悪い意見というと、下線を引いている箇所が改善要望に当たる部分となるが、以前は 1 日 2 往復を運行していたこともあり、「帰りの便を 2 便にしてほしい」という意見や、現行のダイヤでは「新潟市内での待ち時間が長いので早く帰れる便を増やしてほしい」という意見があった。また、アンケート以外で寄せられた声では、路線バスからの乗り継ぎができないという意見があったので、今回の見直しで乗り継ぎの改善を図りたいと考えている。

(代理)伊藤：資料 2-3 の町内公共交通から高速バスへの接続を示す資料の中で、各町内公共交通の始点からの出発時刻は載っているが、高速バス停留所への到着時刻が記載されていない。資料には到着時刻も載っていたほうがベターではないか。

事務局：各公共交通機関から高速バス停留所への到着時間は、丸瀧発の路線バスが上川支所に 7 時 25 分、室谷発の路線バスが上川支所に 7 時 35 分、日出谷代替バスが原町バス停に 7 時 45 分、三川コミュニティワゴンが三川駅に 7 時 54 分、小花地発の路線バスが三川駅に 7 時 30 分着となっている。本資料をホームページ等に掲載する際には、到着時刻も記載した資料に修正させていただく。

副会長：アンケート回答者の 51 人というのは、調査期間中の利用者の何割程度か。

事務局：調査期間中に高速バスをご利用いただいた方には、ほぼご記入いただけたと考えている。

長谷川正委員：調査期間中に同じ人が乗車した場合には、アンケート用紙を記入してもらっていないと運転手に聞いている。

副会長：資料 2-1 の 4 ページのアンケート調査結果に、朝の高速バスの時刻を「遅らせてもよい」という回答の割合が載っているが、「遅らせてもよい」を「遅らせてほしい」というニーズに結びつけるのは拡大解釈なのではないか。どのようなアンケートでの聞き方をしたのか。

事務局：今回のアンケートについては、朝のバス時刻を遅らせることによって、接続改善を図ることを目的として聞いたものであった。初めに接続改善のため、バスを遅らせてもよいかとの設問をしたのち、「遅らせてもよい」と回答した方にどの程度の時間を遅らせてもよいかを聞いている。

(代理)小林：現在、三川地域内の停留所は三川駅前の 1 か所であるが、阿賀野市よりのエリアにも高速バスの停留所設けてほしいとの声が住民から聞こえる。そ

のような予定はあるか。

会 長：そのような声が従前からあることは承知しており、可能な限り対応したいという思いはある。ただし高速バスという形態上、どこにでも停留所を設けるという訳にはいかないし、高速道路上の阿賀野川サービスエリアにバス停を設置するという考えもある。今回は、鹿瀬地域と上川地域の接続改善を実施したが、皆さんからの意見を心に留めながら、高速バスが利用しやすくなるよう事務局とともに改善していきたい。

副 会 長：地域から改善の意見が出ることは非常に良いことである。一番の目標は、住民の外出の機会を増やすことであるので、常に意見を出していただくことが重要である。

(以上の質疑後、原案のとおり承認された。)

【議題3】津川地域（八ツ田方面）における混乗スクールバスについて

(資料3に基づき、事務局が議題3について説明)

清田委員：利用者の事前登録の廃止については、手続きが煩雑や面倒であるという意見があって変更されたものか。

事 務 局：この1年間、事前登録に関するクレームや意見が寄せられたことはないという記憶している。それはほとんどの利用者がすでに利用登録が済んでいるということが大きいと考えられる。ただし、運行事業者さんの声を聴くと、いまだに予約や事前登録をせずに利用される方が多いという現状もある。また、4月よりスクール混乗を予定している鹿瀬地域については、現在実施している八ツ田地域よりも、人口や世帯数も多く、高齢者も多いことから、バス利用のためのハードルを下げることを目的とした。また、今後はスクールバスとしてだけでなく、地域のためのバスを、学生と一般住民が協力しあいながら利用していくという意識の醸成も図っていきたく、このたび事前登録制を廃止ということにさせていただいた。

清田委員：学校も統合し、色々な地域から利便性や社会性を育むという意味では良い混乗化であると思うが、一意見として、小学校統合前の会議で人となりも分からない地域住民がバスに同乗する状況で、学生の安全性は確保できるのかという意見もあって心配でしたので意見させていただいた。

副 会 長：私も3児の父ですので、心配する気持ちを理解できるという一方、地域みんなで協同していこうということを重視した結論だと思う。事前にドライブレコーダー等を設置することによって、抑止力にもつながると思うので、今後もセキュリティ対策を施して行ってほしい。

会 長：安全面を担保しながら、皆さんからより利用していただけるよう進めてい

く。

(以上の質疑後、原案のとおり承認された。)

(4) その他

【新潟交通観光バス(株)の営業所の撤退について】

事務局長：1月15日に新潟交通観光バス(株)本社にて協議を行った結果、運転手の確保と事務員の継続の目途が立ったため、来年度中の撤退については白紙にしたいとの回答を頂いた。ただし、撤退の方向性が無くなったわけではないので、町では新潟交通観光バス(株)撤退後の体制を検討していく。

【循環バスの実証運行について】

事務局長：公共交通網形成計画では、令和2年度中の実証実験を予定していたが、新潟交通観光バス(株)の路線バスが継続することとなり、路線バスとの競合区間が多くみられることから、令和3年度以降に実証実験を実施したいと考えている。

【その他】

副会長：長岡市山古志地区で新たな公共交通の取組として、アプリを活用したマッチングサービスを行っている。行先等の情報をアプリにアップし、目的地があった人が同乗し、チップ程度のお金を頂く。車を所有している方と車をもっていない方のニーズを束ねて相乗りするというサービスが徐々に出てきている。私たちも昨年9月に阿賀町の七名地区の皆さんにアンケートを実施し、50%くらいの方から回答を頂いた。地域の中には多くはないがドライバーをしてもよいという方もいたし、サービスを利用したいという方は多くいた。そのような需要と供給がうまくマッチングすることができれば、阿賀町の中での移動しやすさも一段階上がっていくのではないかと考えている。

(代理)伊藤：阿賀町では、スクールバス混乗化など、公共交通網形成計画に記載のある施策を実施しているが、それを町広報誌やホームページでアピールするためにも、実施している施策が網形成計画のどの部分に当たるのかを分かるよう資料を作成してほしい。

(6) 閉会